

「Satellite 2024」国際会議・展示会

神谷 直亮

1981年以來40年以上にわたる伝統を有するサテライト業界最大の国際会議・展示会「Satellite 2024」が、3月18日から21日までワシントンのWalter E. Washington Convention Centerで開催された。「Unleash the Power of Connectivity」をモットーに掲げた今回のイベントで特に目についたのは、日本の衛星関連事業者による積極的な参加だ。期待を背負った参加者名とセッション名を参考までに挙げれば下記の通りとなる。

五十嵐 巖（三菱重工業） Vice President and General Manager

「Launch Services: Executives Respond to Supply and Demand Forecasts」

堀茂 弘（スペースコンパス） Co-CEO

「Telcos and Satellite: The Relationship takes a New Twist」

小堀 誠（スペースコンパス）

「When AI Goes Wrong in Space: Mitigating the Risks to Space Missions」

森 裕 和（ワーブスペース） CEO

「The Rise of Optical Ground Segment for Laser Communications」

浅川 純（Pale Blue） CEO & Co-Founder

「What Will be the New Industry Standard for Satellite Propulsion after Hydrazine?」

舟橋 直樹（Pale Blue） Head of Business Development

「Startup Space Entrepreneur Pitch Contest」（新興事業者が事業の将来性を競うコンテスト）

上記リストからわかる通り、新興のスペースベンチャーの積極的な参加が目立った。

日本以外では、シンガポールのシングテル（Singtel）社のLim Kian Soon, VP in charge of Satellite, が「5G NTN New Concepts and Use Cases to Achieve Mass Uptakes」のセッションに登壇した。なお、本コンベンション恒例の3大アワードの授賞式も行われ、栄えある受賞者は、下記の通りであった。

アワード名：「Satellite Executive of the Year」

受賞者：Mike Greenley, CEO of MDA Space Corp（主な受賞理由：Telesat社のLightspeedプロジェクト用のLEO衛星198機の契約）

アワード名：「Satellite Technology of

the Year」

受賞者：GSOA, ESA, EchoStar, Thales, Inmarsat, Intelsat and Individual Contributors（主な受賞理由：Central role played in the expansion and adaptation of the 3GPP standards to incorporate non-terrestrial networks）

「Annual Startup Space Competition」

受賞者：Patrick Shannon, Co-founder and CEO of Trust Point Inc.（主な受賞理由：Technology development to enhance the performance, security, and reliability of Global Navigation Satellite System）

「年間最優秀テレポート運用事業者賞」

「Satellite 2024」に合わせて、世界テレポート連合（WTA）が3月19日に年間最優秀テレポート運用事業者を表彰した。栄えある受賞者は、Emirates Integrated Telecommunications Company傘下のDu's Al Qudra Teleport（本社：アラブ首長国連邦のドバイ）であった。同社は、固定電話、モバイル通信、インターネット、デジタルTV放送などのサービスを幅広く手掛ける総合的な通信・放送事業者である。なお、WTAは1985年に米ニューヨーク

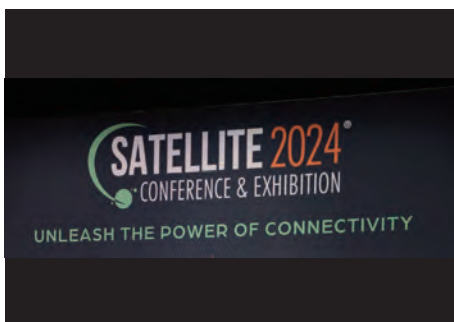


写真1 「Unleash the Power of Connectivity」をモットーに掲げた今年の「Satellite 2024」には、日本の事業者の積極的な参加が見られた。



写真2 「年間最優秀テレポート」の栄えある受賞者は、Emirates Integrated Telecommunications Company傘下のDu's Al Qudra Teleport（本社：アラブ首長国連邦のドバイ）であった。（出典：du.ae）



写真3 「MWC 2024」は、「Exponential Technology」に主眼を置いて開催され、101,000人の参加者でにぎわった。（出典：mwcbarcelona.com）

で創設された団体で、40年経った今でも世界的な強い影響力を発揮している。

話は遡るが、WTAは2月に韓国のKT Ssat Kumsan TeleportとシンガポールのSingtel Bukit Timah Teleportを同連合証明付きテレポートとして承認するとの発表を行った。1970年にオープンしたKT Ssat Kumsan Teleportは、東経57度から180度に位置する17機の衛星にアクセスできる40基の地上局を備えている。一方のBukit Timah Teleportは、Singtel社のDigital Media Exchange and Multi-Format Distribution Hubとして知られる。海底ケーブルとの接続も完璧で、SingtelのSatellite Solutions Center (SSC)でもある。このSSCは、Singtel Fleet ExpressとIntegrated ICT Solutionsを提供している。

アジアの2社が、テレポートという世界の衛星通信の拠点として認定されたのは、今後の世界に向けたアジア市場の発展に大いに貢献することになると考える。

「MWC 2024」

「Satellite 2024」の一月前ほどの2月26日から29日まで、移動体通信業界を中心とするキープレイヤーが集結する世界最大のモバイルビジネス国際会議・展示会「MWC 2024」がスペイン・バルセロナのフィラ・グラン・ピアで開催された。

日本からは、KDDI、NTT DoCoMo、楽天モバイルが大きなブースを設けて活発なPR活動を展開した。

初出展を飾ったKDDIは、「つなぐチカラを進化させ生活体験を革新する (Life Transformation ~ Enhancing the Power to Connect~)」をテーマに掲げて、モビリティ、デジタルツイン、AI、衛星通信、データセンターなどの取り組みを紹介した。衛星通信に関しては、SpaceX、T-Mobileの両社と共同で進めている「Starlinkとスマートフォンの直接通信サービス」に的を絞り、3社合同のプレゼンテーションで「2024年内に提供を開始する予定」との発表を行った。プレゼンテーションのメンバーは、T-MobileのJeff Giard副社

長、スターリンクのJason Fritch副社長、KDDIの松田浩路取締役である。

NTT DoCoMoは、「6G」「Open RAN」「XR」の3つのテーマを掲げて出展した。特に注目を集めたのは「XR」で、NTTコノキューデバイス(シャープとの合併会社)が2024年半ばごろから発売予定の眼鏡型XRデバイスのコンセプトモデルを出展して、利活用のイメージを紹介した。楽天モバイルは、「楽天シンフォニー」を前面に押し出して注目を集めた。楽天グループの通信プラットフォーム事業を担うグローバルな事業組織で、世界各地に拠点をもち、Open RAN技術を用いてコスト効率の高いクラウドベースのモバイルネットワークを提供する。

ソフトバンクは今回ブースを構えなかったが、2月26日に「AI-RANアライアンス」の設立を発表して意表を突いた。プレスリリースによれば、「世界中に存在する膨大なRAN(Radio Access Network)インフラを、AIを基盤にして再定義するイノベーションを推進する」という。アライアンスのメンバーには、T-Mobile USA、Amazon Web Services、ARM、Ericson、Microsoft、Nokia、NVIDIA、Samsung Electronicsなどそうそうたる事業者が顔をそろえている。

海外からの出展では、台湾のMedia Tek(本社:新竹市)が注目を集めた。同社は、ファブレスのIC設計企業として知られているが、今回はRohde & Schwarz(R&S)社と組んで「Next-Generation Satellite Broadband」のデモを行った。Media Tek社の「5G-Advanced NR-NTN Satellite Test Chip」、R&S社の「SMW200A Victor Signal Generator」など

を組み合わせ、KuバンドLEO衛星を使用する前提でのデモである。

韓国のサムスン電子は、スマホのAI機能と「Galaxy Ring」と呼ぶ指輪デバイスを目玉にして出展した。

「第96回アカデミー賞2024」

最後になったが、3月のエンターテインメント業界の最大イベントは何と言っても「アカデミー賞」であった。第96回を数えるこの「アカデミー賞」の発表と授賞式は3月10日にロサンゼルスで行われ、栄えある作品賞はクリストファー・ノーラン監督の「オッペンハイマー」に与えられた。

日本にとってのうれしいニュースは、山崎貴監督の「ゴジラ-1.0(マイナスワン)」が視覚効果賞、宮崎駿監督の「君たちはどう生きるか」が長編アニメーション賞を受賞した。

今回の選考で際立ったのは、戦争への関与・関心と言える。原爆の父と称される「オッペンハイマー」を筆頭に、長編ドキュメンタリー賞を受賞した「実録 マリウポリの20日間」、国際長編映画賞を受賞した「関心領域(The Zone of Interest)」が話題をさらった。日本の作品「ゴジラ-1.0」「君たちはどう生きるか」でも特攻隊や軍需工場のイメージがぬぐい切れない。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

ハイビジョン伝送・災害・報道・海外派遣



「驚愕の超小型平面アンテナ！」
スタンダードなSCPCでのSNGモデルに加え2020年7月に新しくスタートしたスカパーJ SAT社の新サービス「Sat-Q」モデルもラインナップ。お客様の運用にマッチした利用が簡単にできます。放送などのHD映像伝送・災害通信・海外通信・企業のBCP向けなど幅広く利用可能です。

<SATCUBEアンテナの特長>

- 47cm x 30cm x 5.5cmビジネスバッグに入ります！
- SCPCモデル・Sat-Qモデル・各種あり
- 災害/報道/海外派遣映像音声伝送・インターネット接続/ハイビジョン伝送可能
- わずか1分で通信可能組立不要・工具不要
- 衛星補足は内蔵ディスプレイのアシスト機能で素早く簡単
- 航空機対応可能バッテリーで運用可(約3時間運用可能)
- 運用中のバッテリー交換可(ホットスワップ対応)
- モバイル中継装置(TVU・Live U・スマテレ等)と連携可

Communications k.k. エーティコミュニケーションズ株式会社 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-14
TEL: 03-5772-9125 http://www.bizsat.jp